

株式会社フジタ地質

2016年度 環境活動レポート

対象期間:2017年6月1日～2017年8月31日



発行日：2017年10月10日

改定日：2017年11月9日

株式会社フジタ地質 環境方針

当社は、地質調査、地盤改良工事を主とする事業活動において、よりよい状態で地球を次世代に繋ぐため、地域の地球環境保全活動に自主的・積極的に取り組みます。

1. 環境関連法規制を遵守する。また、関連業者、下請けにもこれを指導する。
2. 二酸化炭素排出量の削減に取り組む。(電気使用量の削減、化石燃料削減など)
3. 廃棄物の発生抑制・削減・リサイクルへ取り組む。
4. 節水に取り組む。
5. グリーン購入品の推進活動行います。
6. 現場作業時には、環境に配慮して業務を推進する。
7. この環境方針は全従業員に周知するとともに、広く開示する。

制定日: 2017年5月20日
株式会社 フジタ地質
代表取締役 藤田賢治

取組の対象組織・活動

□組織の概要

- (1) 名称及び代表者名
株式会社フジタ地質
代表取締役社長 藤田 賢治
- (2) 所在地
本 社 岡山市中区雄町425番地1
試験・分析室 同上
資材置場 同上
- (3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先
責任者 本部長 井上秀夫 TEL:086-208-3950
担当者 営業部 石田晃三 TEL:086-208-3950
- (4) 事業内容
地質調査、地盤改良工事、土壌汚染調査、さく井工事、基礎工事・構造物設計、測量
- (5) 事業の規模
売上額 5億7千万円

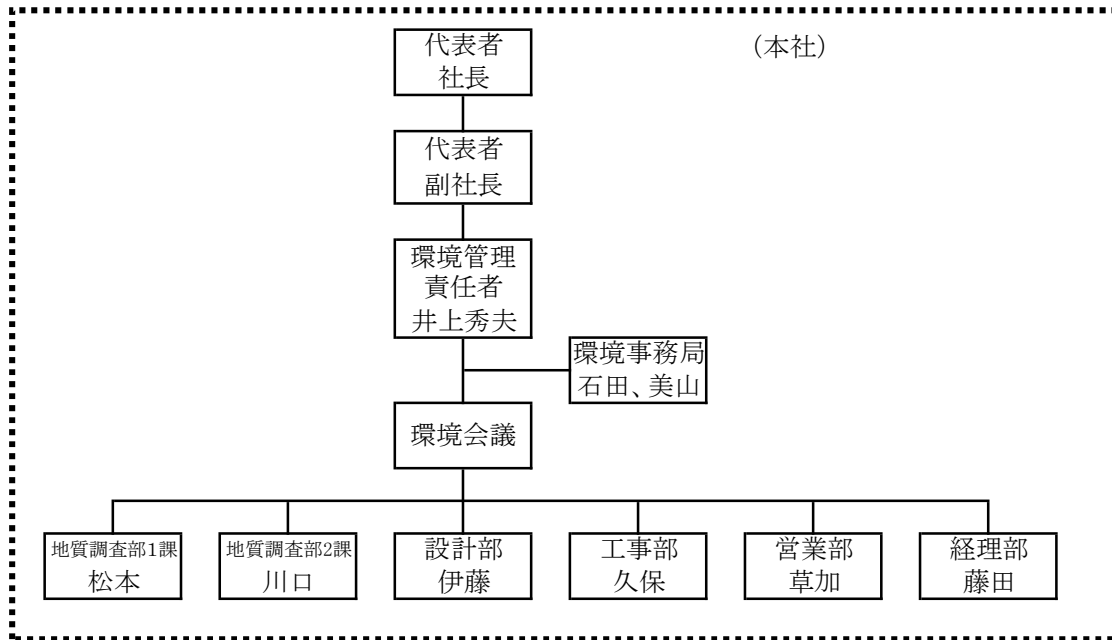
	本社	試験・分析室	資材置場
従業員	32名	無人	無人
延べ床面積	268㎡	20㎡	160㎡

- (6) 事業年度 9月～8月

□認証・登録の対象組織・活動

- 登録事業者名: 株式会社フジタ地質
- 対象事業所: 本社、試験・分析室、資材置場
- 対象外: なし
- 活動: 地質調査、地盤改良工事、土壌汚染調査、さく井工事、基礎工事・構造物設計、測量

実施体制図及び役割・責任・権限表



	役割・責任・権限
代表者(社長・副社長)	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営に関する統括責任 環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間、技能、技術者を準備 環境管理責任者を任命 環境方針の策定・見直し及び全従業員へ周知 環境目標・環境活動計画書を承認 代表者による全体の評価と見直しを実施 環境活動レポートの承認
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営システムの構築、実施、管理 環境関連法規等の取りまとめ表を承認 環境目標・環境活動計画書を確認 環境活動の取組結果を代表者へ報告 環境活動レポートの確認
環境事務局	<ul style="list-style-type: none"> 環境管理責任者の補佐、EA21推進委員会の事務局 環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施 環境目標・環境活動計画書原案の作成 環境活動の実績集計 環境関連法規等取りまとめ表の作成及び最新版管理 環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施 環境関連の外部コミュニケーションの窓口 環境活動レポートの作成、公開(事務所に備付けと地域事務局への送付)
環境会議 部門長	<ul style="list-style-type: none"> 環境活動計画の審議 環境活動実績の確認・評価 自部門における環境方針の周知 自部門の従業員に対する教育訓練の実施 自部門に関連する環境活動計画の実施及び達成状況の報告 自部門に必要な手順書の作成及び手順書による実施 自部門の想定される事故及び緊急事態への対応のための手順書作成 試行・訓練を実施、記録の作成 自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> 環境方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

(1) 中期目標

	年 度		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
	項 目		基準年度				
全社	I. 二酸化炭素 排出量削減	kg-CO ₂ 対基準	117,203	116,031 △ 1%	114,859 △ 2%	113,687 △ 3%	112,515 △ 4%
全社	電力 使用量削減	kWh	32,710	32,383	32,056	31,729	31,402
		kg-CO ₂ 対基準	23,093	22,862 △ 1%	22,631 △ 2%	22,400 △ 3%	22,170 △ 4%
	ガソリン 使用量削減	L	28,674	28,387	28,100	27,813	27,527
		kg-CO ₂ 対基準	66,570	65,904 △ 1%	65,239 △ 2%	64,573 △ 3%	63,907 △ 4%
軽油 使用量削減	L	10,494	10,389	10,284	10,179	10,074	
	kg-CO ₂ 対基準	27,540	27,265 △ 1%	26,989 △ 2%	26,714 △ 3%	26,438 △ 4%	
全社	II. 廃棄物排出量 削減	kg 対基準	9,980	9,880 △ 1%	9,780 △ 2%	9,681 △ 3%	9,581 △ 4%
	一般廃棄物 削減	kg 対基準	実績不明				
全社	III. 水使用量 削減 削減	m ³ 対基準	276	273 △ 1%	270 △ 2%	268 △ 3%	265 △ 4%
	V. グリーン購入	品目 対基準	実績不明				
	VI. 環境配慮工法 の開発と提案	件 対基準	実績不明				

電気の二酸化炭素排出係数0.706[kg-CO₂/kwh]

試行運用期間の実績

作成日 2017/10/10

年度	項目	年	試行運用期間における実績				
			2016年 6月～8月	(2017年6月～8月)			
			基準値	目標	実績	達成度	評価
全社	I. 二酸化炭素 排出量削減	kg-CO ₂ 対基準	31,664	31,349	32,007	98%	×
				△1%	2%		
全社	電力 使用量削減	kWh	9,488	9,393	8,494	111%	○
		kg-CO ₂ 対基準	6,699	6,631	5,997		
			△1%	△11%			
	ガソリン 使用量削減	L	7,932	7,853	8,764	90%	×
		kg-CO ₂ 対基準	18,415	18,232	20,347		
				△1%	10%		
軽油 使用量削減	L	2,529	2,504	2,158	116%	○	
	kg-CO ₂ 対基準	6,550	6,485	5,663			
			△1%	△16%			
全社	II. 廃棄物排出量 削減	kg 対基準	3,380	3,346	6,100	55%	×
				△1%	45%		
	一般廃棄物 削減	kg 対基準			32		△
全社	III. 水使用量 削減	m ³ 対基準	97	96	88	109%	○
				△1%	△9%		
	V. グリーン購入	品目 対基準			67		△
	VI. 環境配慮工法 の開発と提案	件 対基準			検討段階に 入りました		△

電気の二酸化炭素排出係数0.706kg-CO₂/kwh

注1) 達成度欄にて、削減を目指す場合は、達成度＝目標÷実績×100%、増加

注2) 評価欄にて、○：達成、△：やや未達成、×：未達成

一般廃棄物とグリーン購入については昨年度以前の実績を収集していなかった
ので本年度は参考数字とします。

◎よくできた ○まずまずできた △あまりできなかった ×全くできなかった

取り組み計画		達成状況	評価結果と次年度の取組内容
二酸化炭素排出量の削減		(目標未達成)	
(下記の通り)		(下記の通り)	
電力使用量の削減		(目標達成)	
事務所	・空調温度の適正化 (冷房28℃暖房20℃)	◎	各自が服装を工夫し、空調高温度は適正に運用できた。
	・サーキュレーターを設置	×	設置はしなかった
	・不要照明の消灯	◎	昼休みの消灯の徹底もでき、以前より残業も縮小傾向であり、電気の使用量が減少してきている。
	・設備の空転禁止	○	退社時のパソコンの電源を落とすなど、意識は高まってきている。
ガソリン使用量の削減		(目標未達成)	
全社	・アイドリングストップ	△	もっと意識をエコドライブを実行する。
	・急加速・急停車の防止	○	普段より安全運転に注意しているのでまずまずできた。
	・効率的な移動	△	県外の出張時には、効率の良い工程組みを進めている。社員が増え車を使う頻度も増えている。
軽油使用量の削減		(目標達成)	
全社	・重機の空ふかしの禁止	○	周囲への騒音も意識し、空ふかしはしていない。
	・アイドリングストップ	○	適度に休憩を入れ、休憩中は機会のエンジンを止めている
	・空気圧、オイル等の点検	○	各担当者が、定期的に点検を行っている。
産業廃棄物の適正管理		(目標未達成)	
全社	・実態調査	○	正確な排出量を把握する工夫をする。
	・素材ボックスの設置	○	分別ができ、状態が把握できるようになった。
	・保管場所の掲示板を設置	○	設置済みである。 今後も実態調査を継続しながら、削減に努める。
一般廃棄物の削減		(実態調査中)	
事務所	・実態調査	△	準備に時間がかかり1月からの運用となる。
	・分別の徹底	×	上記と同じ 今後、正確な排出量を把握しながら、削減に努める。
水使用量の削減		(目標達成)	
事務所	・節水の周知徹底	○	節水の呼びかけにより達成できたが、より徹底をはかる。
	・節水シールの貼り付け	○	簡単なポスター等を掲示した結果、意識が向上した。
	・清掃時・手洗い時の節水	○	より多くの工夫ができるようにする。
グリーン購入の推進		(実態調査中)	
事務所	・事務用品の購入対象品目調	×	購入時にカタログで調べる程度にとどまっている。
		○	対象品目と金額のデーターを収集している。 今後、実態調査を継続し、早めに形態を固める。
環境配慮工法の開発と提案		(実態調査中)	
全社	・工事分野別の技術・	△	各種工事分野の環境配慮工法について調査を開始。
	・技術開発と客先への提案	×	技術開発テーマが未定 次年度も、左記取組を継続する。

環境関連法規等の遵守状況の評価の結果

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りである。

適用される法規制	遵守する事項	遵守評価
廃棄物処理法	保管基準の遵守、収集運搬・処分業者との適正な契約、マニフェストの交付・保存・確認・交付状況等報告書の提出	遵守
浄化槽法	浄化槽の設置の届出、保守点検、清掃、水質定期検査の実施	遵守
フロン排出抑制法	フロン類使用機器の定期点検と記録、漏洩防止、廃棄時の適切な処理	遵守
家電リサイクル法	特定家電4品目の適正な事業者（家電販売店）への引き渡し	遵守
自動車リサイクル法	使用済自動車の適正な事業者（引取登録事業者）への引き渡し	廃棄実績なし

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていることを確認しました。
なお、環境法規制等への違反、訴訟、環境上の苦情等も過去3年間ありませんでした。

Ⅷ. 代表者による全体の評価と見直し

作成日 2017/10/10

当社は、平成18年より岡山市のグリーンカンパニー活動に取り組んでまいりました。これによる環境への意識づけや効果はまずまずであったと評価しています。
しかし、近年ではマンネリ化が感じられると共に、さらにステップアップしていくことも必要だと考え、エコアクション21に取り組むことといたしました。
これまでのエコアクション21の取り組みにより、数値で効果が確認された項目も多くあります。また、火災訓練や救命訓練も実施されました。今後も全社で協力して、積極的にエコアクション21に取り組んでいくようにしていきたいと思っております。

2017年 10月 10日
代表取締役 藤田賢治

Ⅸ. 環境活動の紹介



<省エネ>



<省エネ>



<省エネ 昼休憩時>



<ゴミ分別>



<消火訓練>



<救命訓練>